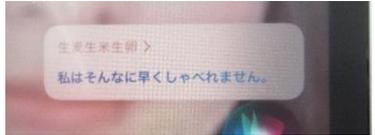


# 1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山県立岡山聾学校	実践者名	池田 康弘
実践場面 (教科、領域、行事等)	自立活動		
単元・題材名	自分の発音を知ろう。		
学習目標・ねらい	苦手な発音を知る。 自分の障害を受容する。		
対象の児童 生徒の実態	高等部 自分の発音に自信ない人		
活用の概要 (使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
<p>(1) iPadに導入されている「Siri」を使って、実際にやりとりをする。</p> <p>例 「今日の天気は？」 「今、どこですか？」</p> <p>(2) 発音が不明瞭で聞き取れなかった場合は単語レベルで発音をする。</p> <p>(3) 上手く反応ができた場合は、早口言葉で言ってみる。 機器が褒めてくれるので、生徒のモチベーションに繋がる。</p> <p>(4) 機器が反応しなかった場合は、インターネット検索で音声認識を活用する。</p> <p>(5) 単音レベルでどう応答するかを確認する。 例…「あ」と言ったつもりが「お」or「う」に認識する場合は発音指導に繋げる。</p>			
   			
活用のポイント・改善策等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上手く応答しなかった場合、生徒はさらに声が大きくなることもある。その際は、大きな声を出すのではなく、発音を明瞭にすることを伝える。</li> <li>・ 相手にはこのように伝わっていることを理解することで、発音練習への意欲や伝わりにくい場合の対処法について考える学習につなげられる。</li> </ul>			